

2015(平成27)年度活動・事業報告

(2015年4月1日～2016年3月31日)

〔 I 〕 2015年度振り返り(概括)

- (1) 2015年度は、会員のみなさんの熱心なご支援とご協力で、会員数、たすけあい活動(サービス)利用者数・時間数ともに、設立以来最高の実績となりました。
- (2) 松戸市が全国に先駆けて、2015年4月から開始した介護予防・日常生活支援総合事業について、佐久間副代表、伊藤監事の協議体委員就任、訪問型元気応援サービスと通いの場元気応援くらのモデル事業者となるなど、支え合い助け合いのある社会づくりに貢献しました。
- (3) 元気シニアの活躍をサポートする各種研修会の開催など、「きょういく」と「きょうよう」を合言葉に、シニアの介護予防・社会活動参加・生活支援サービス参加の促進を図りました。
- (4) 困ったときはお互いさまの精神の象徴的な取り組みとして、東日本大震災被災者支援活動を状況の変化に対応しながら、被災者と市民の協働活動として前進させました。
- (5) 以上のように、たすけあい活動、支えあい助け合い地域づくり活動の前進に比べて、事業活動の収益性改善については 転換がすすまず、経営的には厳しい状態を脱しきれていません。

〔 II 〕 8つの柱の活動・事業の振り返り(まとめ)

第 1 の柱 — おさそい運動・会員活動・研修活動

1. **会員おさそい運動**を春と秋の2回取り組み、ボランティア説明会を21回開催。その結果、新入会員は150人、会員総数は409人となり、設立以来はじめて400人台の組織規模になりました。会員総数の1/3以上が、2015年度1年間に入会した会員という新しいエネルギーにあふれた組織になっています。

No.	種 別	2014 年度 入会数	2015 年度 入会数	2015 年度 期末在籍数
1	ふれあい会員(利用会員)	71	91	242
2	正会員(協力会員)	43	54	146
3	賛助会員	2	5	21
4	合 計	116	150	409

2. **会員交流活動**は、毎月の会員誕生会をはじめ、21回開催、のべ787人が参加しました。ふれあいコンサート、夏祭りなどは、対象を会員・みんなんち利用者だけに限らず、広く地域住民にも参加を呼びかけ、地域住民との交流を深めました。

項目	開催月	参加人数	内容
会員誕生会	毎月第3月曜日	85	
春のお出かけ	4月	50	野田清水公園バス2台
会員卓球大会	4月	21	ふれあいサービス協力会員
みんなんちコンサート	5月	98	みんなんち開設3周年記念
第4回ふれあい夏祭り	8月	300	ボランティア47人
会員ボーリング大会	9月	19	ふれあいサービス協力会員
ふれあい敬老会	10月	57	80歳以上ご長寿会員21人
さんま祭り	10月	55	ボランティア21人
みんなんちクリスマス会	12月	49	
ふれあい新年会	1月	53	

3. **会員研修活動**として、①会員定例会を7回開催(128人参加)、②在宅サービス従事者研修会を3回開催(67人参加)③移動サービス従事者研修会を1回開催(38人参加)④みんなんちスタッフ研修会を1回開催(13人参加)⑤元気応援サービス研修会を3回開催(55人参加)、⑥新入会員研修会を15回開催(46人参加)など計30回、のべ350人が参加しました。
4. **ふれあい寄付金運動**を11月12月に実施、過去最高の145人の協力、年間延べ239人の協力がありました。

第2の柱 - 困ったときはお互いさまのたすけあい活動

- ふれあいサービス(有償ボランティア活動)は、提供時間数は前年並みにとどまりましたが、利用人数、ボランティア協力人数とも前年を上回り、設立以来最高の実績となりました。
- 制度サービスは、居宅介護支援(ケアマネジメント)、訪問介護サービスとも利用人数は前年を大きく上回りました。訪問介護サービスは提供時間数についても前年比137%に伸びましたが、障がい者総合支援サービスは、利用者は増えましたが、提供時間数は87%と減少しました。
- 事業対象者に対して新設された松戸市元気応援サービスは、3月からモデル実施がスタートしました。困ったときはお互いさまの助け合い活動の拡大発展と位置付けて2015年10月より松戸市介護制度改革課と検討を重ね、準備をすすめました。困りごとコースを中心に3月1か月で40件を超える問い合わせが寄せられています。

No.	種別	活動(提供)時間数		利用人数		協力(活動)人数	
		年間実績	前年増減	年間実績	前年増減	年間実績	前年増減
1	ふれあいサービス	5,187	+3	850	+135	537	+3
2	制度サービス	5,473	+634	1,517	+317	385	+66
3	合計	10,660	+837	2,367	+452	922	+69

(時間数)

No.	種 類	2015 年度 実績	前年増減	前年対比
1	ふれあいサービス(移動サービス)	4,630	+38	101%
2	ふれあいサービス(生活援助サービス)	557	△35	94%
3	介護保険・訪問介護サービス	3,485	+939	137%
4	障害福祉サービス	1,988	△305	87%
5	合 計	10,660	637	106%

(利用人数)

No.	種 類	2015 年度 実績	前年増減	前年対比
1	ふれあいサービス(移動サービス)	682	+106	116%
2	ふれあいサービス(生活支援サービス)	168	+29	117%
3	居宅介護支援(ケアマネジメント)	937	+197	127%
4	訪問介護サービス	361	+94	135%
5	障害福祉サービス	219	+26	113%
6	合 計	2,367	452	124%

第3の柱 - ふれあいの居場所みんなんち活動

1. 開設4年目を迎え、利用者が利用者を誘うなど熱烈なファンが増え、年間利用実績は4,000人を超えました。今後より一層地域とのつながりを深めるため、5月に開設3周年記念コンサートを小金市民センターホールで開催しました。
2. 目指す居場所(サロン)像として、「3つの場(ミツバ)を大切にすること」に整理しました。
 - ①居心地のよい居場所(ホッとできる場所)
 - ②人と交流しつながる居場所(友達・仲間ができる場所)
 - ③その人らしさを活かし輝ける居場所(やりがい、生きがいを感じる場所)
3. 趣味・文化・介護予防などの講座はどれも人気が高く、8種類の講座をのべ89回開催、のべ921人の参加がありました。映画鑑賞・カラオケ歌声などのイベント、清水公園、紫陽花めぐりなどのお出かけ、さんま祭りなどの会食会など多彩な活動を行いました。
4. 運営スタッフが前年の2倍以上に増え、運営をスタッフの総意で行う運営委員会体制にしました。

第4の柱 - 支え合い助け合いを広げる活動

1. 支え合い助け合い(互助)の大切さを市民に広げることを目的に、①堀田力氏講演会(4月)②団塊・シニアの地域デビューセミナー(6月)、元気シニアの活躍サポート研修会(11月・2月・3月)を開催、395人の参加がありました。
2. ふれあい夏祭り(8月)開催、小金地区ふれあい広場(9月)、サポセン未来フェスタ(3月)に出展し、ふれあいネットまつどの活動を市民に知らせ、広げました。
3. 広報まつど3月1日号に広告掲載、全国紙、地域紙などの紙媒体掲載が26回、NHKTV・ラジオ、ちばテレビ、コアラ TV、などでも取り上げられ、支え合い助け合い活動を広く知らせることができました。

第5の柱 - たすけあい活動の担い手養成事業

1. 福祉有償運送運転者講習会を千葉県内全域を対象に4回開催。108人の移動支援ボランティア(運転者)を養成、移動困難者の移動の自由拡大に貢献しました。
2. 千葉県補助事業元気高齢者の活躍サポート研修会を①生活支援②居場所・サロン③移動支援の3コースで4回開催。元気シニアのたすけあい活動の担い手140人を養成しました。
3. 介護職員初任者研修(旧ヘルパー2級養成研修)は、当初より開講が遅れましたが、2016年4月に開講することができました。

第6の柱 - 東日本大震災被災者支援活動

1. 2011年3月11日の発災直後に会員有志で、「チームたすけあい」を結成して始めた被災者支援活動も5年を経過しました。社会の風化現象に対して、ふれあいネットまつどのミッションの一つである「困ったときはお互いさま」の精神の象徴的発露としての被災者支援活動を2つの柱で取り組みました。
2. 宮城県東松島市被災者支援・交流活動として、①一泊2日の被災者との交流旅行(6月)②小野地区での寄合場所(サロン)開催活動の支援を行いました
3. 千葉県東葛地域への広域避難者支援活動を、東日本大震災復興支援松戸・東北交流プロジェクトの事務局団体として、避難者交流サロン黄色いハンカチを拠点に取り組みました。5年目の3月11日には900人の市民の参加で節目のイベントを行いました。

第7の柱 - NPO・行政などとの協働事業

1. 2015年4月の介護保険改正、介護予防日常生活支援総合事業について、松戸市社会福祉協議会・松戸市シルバー人材センターとともに松戸市介護制度改革課と協議をすすめ、訪問型元気応援サービスとして、2016年3月にモデル事業をスタートするところまで漕ぎつけました。この取り組みは、行政との協働活動のあり方として、今後のふれあいネットまつどの活動の方向を示唆するも
-

のと思われます。

2. 千葉県たすけあい協議会の会長団体をはじめ、NPO・市民団体のネットワーク強化を目的に、市民福祉団体全国協議会(全国)・まつど NPO 協議会・ちば NPO 協議会の役員を担いました。

第8の柱 - 組織運営・組織基盤づくり

1. 理事会が組織運営の要となることを目指し、会員活動のテーマごとに役員が委員長・担当事務局スタッフでの実行委員会を作りました。また、テーマごとのプロジェクトチームを役員と事務局スタッフでつくりました。ボランティア活動洗い出しプロジェクトを筆頭に成果が出始めています。
 2. たすけあい活動の質量ともの強化を図るためにコーディネーターを増員するなど、事務局体制の再編、強化に取り組みました。
 3. 年次決算で赤字という実績に終わりました。会員数、たすけあい活動、地域づくり活動ともに、前年を上回る前進と成果を上げたにもかかわらず、赤字の結果は、これらの成果を収益構造転換の課題と結合させることができなかつたこと、助成金・補助金への依存構造の転換がすすまなかつたことにあります。引き続き最重要課題です。
-